

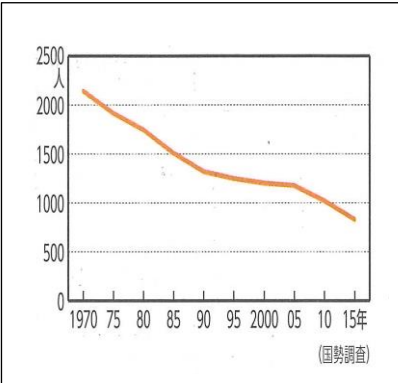
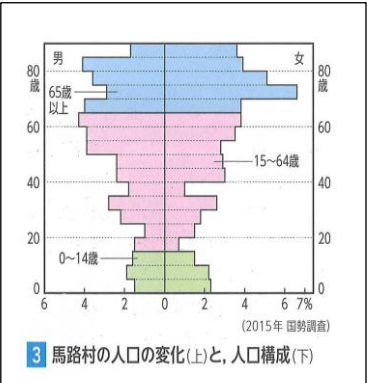
【本時の目標】 馬路村の地域おこしから四万十市に生かせる取り組みを考え、表現する。(本時 5/8時間)

【本時における社会的な見方・考え方】 様々な資料を取捨選択し、複数の資料を関連付けて、根拠を示しながら地域おこしの成功例を考察・表現し、四万十市民として考える持続可能な地域づくりを構想に役立てている。

問題 四万十市民として持続可能な地域づくりを提案しよう。

めあて 馬路村の取り組みから四万十市に生かせることはないだろうか。

板書

馬路村の取り組み

- ・移住サポート
- ・子育て支援 (保育料無料)
- ・特産品 (ゆず) **六次産業化**
- ・色々な商品
- ・ネット販売
- ・PR を工夫 (CM)

四万十市の取り組み

- ・移住者支援 (空き家バンク)
- ・子育て支援の施設 (相談)
- ・「しまんと」をブランド化 **四万十川推し**
- ・グリーンツーリズム (滞在型)
- ・地産 (栗、ぶしゅかん、米ナス)

まとめ・振り返り

四万十市で作ったものから色々な商品を出したらよい。地産地消だけでなく、地産外商ができる商品を作り出すことが必要であることを学んだ。

◎教科の見方・考え方を働かせて課題解決させる手立て (「問題」、「めあて」の工夫、まとめ、発問、活動など)

中国・四国地方の学習を進める際、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を基に、空間的相互依存作用や地域に着目して、「持続可能な地域づくりとは何か」を主題に、様々な課題を追究したり解決したりする活動を通して、生徒が自分の住む高知県や四万十市を真剣に考え、自分なりの解決方法を、根拠を示しながら表現することで、学習を深めていく。

高知県の未来を考えた時、人口減少や少子高齢化などの課題が、小学校までの学習の中で導き出されるが、これらの課題を自分事として解決していくために、「四万十市民として、持続可能な地域づくりを提案しよう」という単元を貫く課題を設定し、意思決定を促していく。

この課題に迫るために、中国・四国地方の自然や地形、位置や人口や面積を市町村合併で増加させ、中心となった広島市、過疎が進む中で発生する課題、地域おこしの成功例、地域をつなぐ連絡橋や高速道路などを題材に事象について多面的・多角的に考察する。本時では、六次産業化した馬路村の地域おこしの取り組みだけではなく、馬路村が行っている地域を生かした施策を村の HP や観光紹介等から学び、四万十市に活かせることを探っていく。

また学びの中での疑問や自分の考えの根拠を示すために、四万十市に関わる課題や人口推移、施策など自分で資料を収集、取捨選択することで、自分の意見に客観性や妥当性、周りが聞いて納得できる提言を作っていくように働きかける。

馬路村の取り組みに注目し、めあてを設定する。

T 過疎地域の取り組みの中で、全国的に注目を集めている地域が高知県にあります。この商品を知っていますか。

～ CM (ごっくん、ポン酢) を流す。～

S ごっくん馬路村だ。

S ゆずポン酢もある。

T 実は教科書に馬路村のことが載っています。教科書 P196～P197 を見てください。

T 馬路村は高知県のどの辺りに位置しているだろう。

S 高知県の東部に位置しています。

T 人口はどれぐらいでしょうか。

S 850 人ぐらいです。

S 少子高齢化が進んでいる。過疎の地域である。

T 今日は馬路村がどんな取り組みをしているか調べてみましょう。何のために調べるのだろう？

S 四万十市の持続可能な地域づくりに生かすためです。

T じゃあ、めあては何にしよう。

めあて 馬路村の取り組みから四万十市に生かせることはないだろうか。

馬路村の地域おこしから四万十市の取り組みについて調べ、表現する (思・判・表)

T 馬路村の取り組みを調べるには何を見ればよいでしょう。

S 馬路村の公式HP とかを見たら分かりやすいと思います。

T いいですね、では調べてみてください。どんな視点を持って取り組みを調べたらいいでしょう。

S お金や人を生み出すもの、仕事を生み出すものに注目します。

【 個人思考 】
(クロムブックを活用し、パッドレットにまとめる)

【 全体共有 】

S 移住者の声を見た時に、実際に他の地域から移り住んだ人の声、仕事をしながらの子育て支援も大きいと書いてあり、保育料無料と18歳まで医療費無料なので子育てがしやすいと思う。

S 馬路村の特産品のゆずを使って、ごっくん馬路村だけでなく、化粧品などたくさんの商品を作り出しているから売上げが伸びていると思う。年間30億近く稼いでいるのはすごい。

S 日本全国に販売できる商品を作り出し、インターネットを利用した通信販売を中心にしている。

S CMで上手にアピールしているから商品を覚えやすい。村の名前が商品名にも付けられている。

S HPを見ると温泉や鉄道など観光のPRにも力を入れているので観光客も増えていると思う。

S 村に工場ができて働く場所が増えているのは、人口流出を防ぐ手立てになっている。

T 馬路村の取り組みが色々と分かりましたね。四万十市ではどのような取り組みをしているのでしょうか。六次産業化、観光、産業、移住者支援に対する取り組みを調べてみましょう。

【 個人思考 】

S 四万十市にある豊かな地域資源を育て、「しまんと」のブランド力を宣伝している。

S 川と共に生きるまち 四万十川というブランドを生かしている。

S 移住に力を入れており、「空き家バンク」という制度をつくっている。

S 四万十市地域子育て支援センター「なかむら ぼっぼ」があり、育児を頑張っているお母さん、お父さんを応援する組織である。親子のふれあい活動や子育て相談を行うことで支援をしている。

S 京都府から移住してきた人は、サーフィンをするために通っていて四万十市に移住をした。自然が素晴らしく地域の人たちの支援もあったようだ。

S 観光客118万人に対して宿泊者22万人なので四万十川でのイベントグリーンツーリズム、スポーツツーリズムを創り上げ、滞在型・通年型の観光地づくりをしている。

S 地産の物としては、ぶしゅかん、ゆず、栗、米ナス、四万十農法米に力を入れ、市も支援している。

まとめ 振り返り

T それでは、今日はまとめと振り返りを一緒にしましょう。馬路村の素晴らしい取り組みから四万十市に生かせることを考えてみましょう。

S 四万十市でも地元の生産品を上手く商品化し、製造も四万十市で行うことで、雇用を増やすことに力を入れるべきである。

S 商品をPRしてオンラインショッピングで販売することで、収入を増やすことができます。これなら都市から離れた四万十市でもできる。

S 四万十市の特産品を作り出すことで、生産者のやる気や収入の道を作り出すことは、持続可能な四万十市を作れる。

S 商品でも観光でも何か売り出すときには、それだけではなく、そのほか四万十市でできることや食べられることを複合してアピールすることで、市外や県外の人に四万十市に興味を持ってもらえる。

S 四万十市で作ったものから色々な商品を出したらいいと思います。地産地消だけでなく、地産外商ができる商品を作り出す必要性を学んだ。

T 自分の提案に付けくわえて、より提案に具体性を出していきましょう。

<指導上の留意点>
・馬路村についての興味・関心を高め、主体的に調べることにつなげる。

<指導上の留意点>
・多面的・多角的に考えさせるため、ICTを活用する。

<指導上の留意点>
・めあてに対するまとめが振り返りとも重なるため、一つにまとめる。

<評価規準>

馬路村の地域おこしから四万十市に生かせる取り組みを考え、表現している。